年間授業計画　新様式例

高等学校 令和７年度（１学年用） 教科　芸術　　科目 美術Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　美術Ⅰ　　単位数：　　単位

対象学年組：第　１学年　　組～　　組

教科担当者：（　組：髙橋　）　（　組：　　）　（　組：　　）　（　組：　　）　（　組：　　）　（　組：　　）

使用教科書：（ 光村図書　美術１　　）

教科　芸術　　の目標：　芸術という表現の媒体を通して表現の幅を広げまた世界への理解を深める。

【 知　識　及　び　技　能 】芸術の知識、技能を身につけ、実践的に自己表現に活かし、また物事の洞察に活かすことができる。

【思考力、判断力、表現力等】自己、他者、環境、その瞬間の自分の目の前の対象を多面的に捉え、その場面に応じた工夫や発想をする。

【学びに向かう力、人間性等】主体的に芸術を通して表現をしようとし、また他者の芸術表現の背景まで感じ取ろうとし、その感覚を他者

科目　美術Ⅰ　　の目標：　総合的に美術に関する知識、技能を習得し、より深く物事を洞察解釈したり自己表現ができるようになる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・総合的に美術及びデザインの知識と技能を学び、 実践的に自らの自己表現に活かせるようになる。 ・物事を観察する際にそれらの知識を使い深く洞察できるようになる。	・自分自身と自己に付随するものを観察することで 主題や自らの伝えたいことを設定できる。 ・設定した主題に沿って素材や技法を選ぶことがで きる ・作品の意図や工夫など、作品の背景にまで考察し	・主体的に自分や自己に付随する物を観察し、それ らを表現しようとする。 ・主体的に他者の作品や考え方について捉えようと し、また捉えたものを言語的に他者へ共有できる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 絵・彫	表現 デ	表現 映	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
A. デザイン 「メッセージを広く伝える」 自らの伝えたいことがどのようにしたら効果的に伝わるか工夫しながらポスターを制作する。	・一人一台端末 ・筆記用具 ・教科書 デザインや色彩の基本を学び、それを生かしてメッセージの伝わるポスターを考える。またアイディアの出し方、洗練のさせ方を身につける。		○	○		【知】色彩の基本や構図についてなどデザインをする上での基本的な知識を使ってポスターの制作をしている。【技】デジタル機器と手書きを組み合わせてポスターを制作している。【発】自分自身の考えや感情を探り伝えたいテーマを設定し、それを効果的に伝えようとデザインを構想している。【鑑】デザイナーが行っている実際の着想の工程かその工夫ややり方などを学習している。【態表】主体的にデザインについて工夫をこらせ創作活動に取り組んでいる。【態鑑】主体的に他者の作品を鑑賞しそこから意図や工夫を感じ取ろうとしている。				１８
A. 塑造 「感覚を表す」 粘土を用い、自らの感覚を表現することで癒やしの効果があることを実感し、また自らの内側で起こる感覚や感情を言語化し他者に共有できる。	・粘土・筆記用具 ・プリント・教科書 粘土に触れながら自分の感覚から連想される具体的なものや、抽象的な形を創造する。また相互にその造形の意味を言語で共有する。	○				【知】塑造の性質や、創作活動のもたらす心理的効果を学び自らの表現に活かしている。【技】塑造に使用できる様々な道具を効果的に扱うことができる。【発】自分の感覚、感情から形を発想し即興的に表している。【鑑】粘土を使用した様々な作家の感情表現や癒やしの例を知り自らの創作に活かす。【態表】主体的に自らの感覚に焦点を合わせ、それらを表現しようとしている。【態鑑】主体的に他者の表現から他者の感覚を感じ取ろうとしている。				6
B. 鑑賞 「パブロ・ピカソ」 鑑賞を通して美術の表現の自由さと、唯美ではなく、様々な意図や工夫があることの面白さを感じる。	・プリント・プロジェクター ・筆記用具・教科書 パブロ・ピカソの生涯を学び、それを通して現代絵画の考え方、捉え方を学ぶ。				○	【知】パブロ・ピカソの生涯と近代絵画の考え方や見方を理解している。【鑑】美術には唯美的な美しさだけではなく、様々な意図や工夫があることをを知り、美術の感じ方の幅や深さを広げている。【態鑑】主体的にパブロ・ピカソや近代絵画のそれ以前の絵画や芸術と違った趣があることを感じ取りながら鑑賞活動に取り組もうとしている。			○	2
４．彫刻・建築 「場所との対話」 設置場所や鑑賞者、使用者など自分の身近な環境や他者を意識して、創作活動をする。	・紙・粘土・木材 ・一人一台端末 校内に野外彫刻、または建築物を構想する。模型を作り、設置予定場所と合成し、その計画を具体的にプレゼンテーションする。	○	○	○	○	【知】環境に依存する野外彫刻や建築物について学習し創作に活かしている。【技】様々な素材を組み合わせ効果的に模型を作る技術を習得して制作している。【発】設置場所の性質や実際に作品を鑑賞したり使用したりする人のことを考えて作品の構想している。【鑑】他者の作品の制作の意図や工夫を感じ取ろうとしている。【態表】主体的に作品の設置場所の設定からプレゼンテーションまでの総合的な創作活動の過程を行っている。【態鑑】主体的自らの自分の作品についてやまた他者の作品について感じたことなど、考えを表そうとしている。				16
A. デザイン 「文様で飾る」 自分自身のマークや印となるようなパターンを制作することで様々な物をオリジナルに装飾できるようになる。	・教科書・その他教本 ・ペン・色鉛筆　等 鑑賞とゼンタングルでの絵の制作を通して文様の基礎を学びながら、オリジナルの文様を制作し、学んだ文様とオリジナルの文様を組み合わせて自分の名前を装飾する。		○			【知】様々な文化圏や国の文様を知り創作活動に活かしている。【技】様々な画材の性質を知り創作活動に活かしている。【発】自分自身の特徴となるようなモチーフを見出し、それを文様化している。【鑑】様々な文化圏や国の文様を知り、文様の装飾的な一面だけでなく、その背景にある文化や思想をに視点が及んでいる。【態表】主体的に自分自身を装飾するのにふさわしい文様の創作に取り組んでいる。【態鑑】主体的に他者の文様の背景にある意味を読み取ろうと取り組んでいる。				12
A. 絵画 「自己を表す」 自分自身の見た目以外にも、自己イメージや他者イメージ、内面、心象などを総合して、自分とは何者かという命題に自画像で現在の回答をする。	・紙・絵の具・色鉛筆・パステル、等 自ら自由に画材を選択し、「自画像」を描く。自己と自分の顔をテーマにするが、その表現の方法は問わず、どうしたら自分というものを表せるのかを主軸に置く。	○				【知】基本的な絵画や画材の知識を習得し創作に活かしている。【技】様々な絵画技法を総合的に学んだ上で、そこから自分の表現に合ったものを選択している【発】自分自身というテーマから描くものを発想しているか。【鑑】他者の自画像から自己というものの感じ方の多面性を広げている。【態表】主体的に自己とは何かという問いへの返答となる表現を試みようとしている。【態鑑】主体的に自らの絵画表現を他者に補足的に解説し、また他者の自己表現にたいして理解を深めようと鑑賞活動に取り組んでいる。				12
B. 鑑賞 「まとめる、振り返る」	・ファイル・紙・筆記用具 ・プリント　等 作品を一つのファイルにまとめ、一年間を一冊で振り返ることができるようにする。またその振り返りを行い授業内でお互いに授業全体で学んだことや感じたことなどをシェアし合う。		○		○	【知】芸術分野で作られる作品集やポートフォリオについて知り、自らの作品をまとめることに活かす。【鑑】他者のまとめた作品集を鑑賞し、様々なまとめ方を検討した上で選択してる。【態鑑】主体的に自らのまとめの意図や一年の制作を振り返った上での感想を述べ、また自分とは違う他者の発表を通して自らの美術の授業の振り返りを更に深めている。		○	○	4